

鳥のえさ台作り 大野町保育園（石川県金沢市） [5歳児と小学4年生]

自然体験のできる大好きな「トトロの森」に、昨年度「鳥と仲良しになろう」と、牛乳パックで作ってあったえさ台が壊れてしまった。子どもたちの「直したい」という言葉をきっかけに、「もっと大きくしたい」「強くしたい」「木で作りたい」「レンガにしたい」などいろいろな思いがだされたが、トトロの森の自然の材料で、えさ台兼小鳥の家を作ろうということになり、グループごとに設計図を作成した。

1 相談して設計図を作る <設計図作成中のやりとり>

「赤ちゃんを育てる所がいるよ」 「ご飯を食べる場所もあるよ」 「ご飯を置いておく部屋もあるんじゃない」 「じゃあ、部屋が3つあるね」 「鳥さんどうやって通るの？」 「はしごつけて、3つくっつけばいいんじゃない」	「食べられるお家にしたら」 「木の実とか葉っぱとかいっぱい飾ろう」 「鳥の好きな赤い木の实がいいよ」	「鳥さんの友達作ろう」 「鳥みたいな形の木を探そう」 「お友達いたら大丈夫だと思って食べに来るね」
--	--	---

アイデアがたくさん出て大掛かりなものが多くなった 小学生の協力を得て、一緒に作ろう

【5歳児と4年生の協同活動】

2 協同設計図作り・材料集め <園=5歳児 小=小学校4年生>

園：「三角のお家になりたい」 小：「じゃあ、三角に切ってみようね」 「三角だから太い木が3つあるね。拾ってこよう」	園：「竹を3つつなげたい」 小：「う～ん、どうやってつなげる？」 「ひもで結ぶ？」「木に乗せる？」 「屋根に飾る葉っぱがあるね。探してこよう」
---	--



3 えさ台作り

釘が入らない場面	水飲み場を作る場面	えさ台の設定に苦労した場面
様々な長さや大きさの釘があり、打つ板や木によって、とれてしまったり入らなかったりする。 「おかしいな？なんでとれるんだらう？」(疑問) * 保育者から「いろんな大きさの釘があるよ」と助言を受ける。 「本当だ！よし！いろいろやってみよう」(発見) 「やった！この釘ぴったりだ！」(達成感)	設計図にはないが、「水飲み場」を作ることになる。(工夫・発想) 「笹はどうか？」「いいね」 「笹にしよ」(提案 共感) 「どうする？」「重ねてみる？」 「交互にしてみる？」(工夫) 「だめだ...上手いかない...」(失敗) 「松葉でとめよう！」(工夫) 「難しいね」「なかなか上手くできなかったね」	完成したえさ台を設置しようとするが、重くてなかなか立たない。 「どうする？」「倒れてくるね？」 「分かった！」「木に紐で結びつけたらいいんじゃない？」(提案) 「よし！ぐるぐる巻きにしよう！」(挑戦) 「やった！」「ちゃんと立ったよ！」(達成感) 「よかったね！」「よかったね！」(共感)

4 その後の姿

- ・えさ台にえさがなくなっているのを見て、鳥がえさを食べに来てくれたと喜ぶ。
- ・壊れかけたえさ台を見て、みんなで修理する姿が見られた。

<考察>

- ・設計図作りでは、想像力を働かせたり、きてくれるだろう鳥のことを思ったりしながら、協力し合い心を込めて作成していた。
- ・えさ台作りでは「トンカチやりたい」「水飲み場を作りたい」と、意欲や関心をもって取り組んだ。「釘どうやればささるかな？」「丈夫にするには？いろいろやってみよう」という好奇心や探究心につながった。
- ・園児と小学生の協同活動では、互いによい刺激となり、豊かなかわりを一層深められたと思う。小学生が難しいところをしてくれたり、優しく手伝ってくれたりしたことで、園児は憧れや尊敬の気持ちをもつことができた。園児は森に詳しいので、鳥のえさの木の实の場所や鳥の名前を教えている場面があった。



みどころ

えさ台は鳥に親しみを感じる魅力的なものであったので、作り直そうという思いや好奇心が引き出されました。「牛乳パックなどで作られたえさ台は壊れてしまう」「強い壊れないものを作ろう」「鳥が喜ぶえさ台や家にしよう」という考えがあるので発想は広がりますが、その思いを設計図にすることで共通になります。「トトロの森の中にあるもので作る」という共通の約束は、森を愛する子どもたちには当然のルールとして受け入れられたと思われます。実現するには難しいえさ台作りを小学生と行うことで完成する体験は、「共に生きる喜び」「感謝や思いやりの心」を育てています。